

鹿児島大学での 「市長と語る会」発言に対する対応方針

〔開催概要〕

日時:令和3年7月15日(木)11:00～12:00

場所:鹿児島大学

令和3年10月
鹿児島市 市民協働課

「市長とふれあいトーク」発言に対する対応方針

別紙(発言要旨)

日時: 令和3年7月15日(木)11:00~12:15
場所: 鹿児島大学

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	担当課の見解、今後の対応等
1	鹿児島大学 学生	<p>① タイトル:天文館アプリで楽しさアップ(リ)</p> <p>現行の天文館アプリは、店舗を検索すると各店舗のホームページに移動するなどアプリを使う必要性が低い。便利なアプリだと若者の利用が増え、これをきっかけに天文館を訪れる人も増えると考えられることから、天文館アプリ限定のデジタルクーポンを導入してはどうか。</p>	<p>① アプリの活用はいいアイデアだと思う。その上で、いかにダウンロードしてもらうのか。また、どう使ってもらうのか。仕掛けが必要な部分で、まずはダウンロードしてもらうハードルをクリアする仕掛けを考えてもらえればと思う。</p> <p>また、クーポンの原資を行政が出す場合、民間と違い、他に騎射場、谷山、吉野など商店街がある中で、なぜ天文館だけ割引を出すのかという部分を納得してもらうために、天文館に特化する理由を押さえておくとの視点が必要となる。一方で、クーポンで割引を実施したら来客が増えるので、店舗に原資の協力をもらうという方法は、実はハードルが低い場合もある。参考にしてください。</p>	産業局	市長回答のとおり
2	鹿児島大学 学生	<p>② タイトル:家族で楽しく防災ゲーム~こんなときあなたはどうか動く~</p> <p>民間の防災に関するアンケートで、日ごろから防災対策を行っていない理由として、「何をしたらよいかわからない」との回答が多かった。また、災害時の被害者は要支援者である子どもや高齢者が半数を占める。</p> <p>そこで、防災意識を高め、必要な知識を得るために、家族で取り組める防災すごろくゲームを作成し、市民に提供してはどうか。</p>	<p>② 避難行動の理解促進という重要度、優先度が高い提案してもらったと思う。</p> <p>子どもができることは、結局親や祖父母まで家族と一緒にできることにつながるので、よいアイデアだと思う。</p> <p>災害や避難行動などに関するデータや学生の皆さんが今回行った聞き取りは大事な部分で、なぜ災害への備えをしないのか、市の取組みで何が足りていないのかなど、行政にとっては特に若い世代の認識をつかみ取れていない部分である。また、これから深堀するときは、行政から提供される危険個所や避難所などの情報を、見ていない人はなぜ見てないのか、もしくは見たけど実際に自分の避難所はどこか確認したか、確認していない人はなぜか、こういったことを学生さんや若い人がなぜ、どこでつまづいているんだろうというところを分析していただくとよいと思う。</p>	危機管理局	市長回答のとおり

「市長とふれあいトーク」発言に対する対応方針

別紙(発言要旨)

日時: 令和3年7月15日(木)11:00~12:15
場所: 鹿児島大学

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	担当課の見解、今後の対応等
3	鹿児島大学学生	<p>③ タイトル:「#喜び入るまち」戦略的バズらせ方法</p> <p>若者を中心にSNSでのハッシュタグ検索で流行りものや映えスポットを探すことが定番化していることを背景に、「#喜び入るまち」のハッシュタグを使ったキャンペーンを展開し、喜入の魅力発信につなげてはどうか。また、現在行っている婚姻届メモリアルボードの利用者にSNS投稿を促すことで相乗効果が生まれると思う。</p>	<p>③ 参考にした葉山町の例にあるように、大きすぎないある程度の規模感が親和性があるのではないかと。喜入という地域単位で行うのは面白いと思う。どうしても鹿児島市全体でやろうとすると色々幅広く発信しなければならない。</p> <p>また、もっと深掘りしてもらうならば、他の成功例で、観光客がどの程度増えたのか、消費額がどの程度増えたのかを示されるとさらに説得力が増すと思う。</p>	市民局	<p>市長回答のとおり</p> <p>今年度予定されている本講義受講生を対象としたインターンシップにおいて、学生と協働し、婚姻届提出時に貸し出しているメモリアルボードのバージョンアップを検討している。</p> <p>また、鹿児島ユニテッドにも「#喜び入るまち」のハッシュタグをつけたSNS投稿をお願いし、連携した地域の魅力発信に取り組んでいきたい。</p>
4	鹿児島大学学生	<p>④ タイトル:鹿児島ユニテッドでさらに喜びが入るまちへ</p> <p>Jリーグが取り組んでいるシャレン※を参考に、喜入でサッカー大会やクラブハウスに設置されるカフェを活用し、地域とチームの交流を促進し、地域活性化につなげる。</p> <p>※クラブチームと地元の企業、団体等が連携し、まちづくりや世代間交流等に取り組む活動</p>	<p>④ 地元の特産品を使うのは大事なことで、観光客が来るだけでなく、地元にお金落ちるかが課題である。例えば、地元の特産品の活用により農家に新たな収入源ができ、そこから後継ぎが帰ってきて、人が住むようになるといったつながりが出てくる。</p> <p>観光を考える際には、観光客にどれだけ喜んでお金を使ってもらえるか。できるなら、それが他のところから買ってきたものではなく、地元の産品を使って売る。そうすることで仕事ができる人が住むようになる。そういった地元の物を使っていかに稼ぐかということを見るとより良い提案になってくると思う。</p>	市民局	市長回答のとおり
5	鹿児島大学学生	<p>⑤ タイトル:フツ軽に天文館へ</p> <p>中央駅周辺に向いている若者を天文館へも向かせるため、金沢市の「お帰り乗車券プレゼント」を参考に、天文館で一定額の買い物をするお帰りの市電代や市営駐輪場代が無料になるスタンプカードを導入してはどうか。</p> <p>※フツ軽…フットワークが軽い</p>	<p>⑤ 紹介された金沢市の事例のとおり、行政が費用を負担した分経済効果があることが大切である。交通費を割引することで、まちが賑わえば、仕事ができ、皆さんの給料になって、それが税収となるから行政が補助できるというように説得力が出てくる。</p> <p>また、割引の対象となる価格設定が大事な部分である。例えば、700円買った対象になるというキャンペーンを大手のコンビニが行っているが、これには根拠があり、キャンペーンをやっていないときのコンビニの平均購買金額は大体550円ぐらいであるが、700円に設定することで、あと200円分買えばキャンペーンの対象になるというところを狙っている。普段だったら、使わない金額だが、あといくら使えば、割引になるから買おうといったラインが、皆さんの金銭感覚や周りをよくリサーチして見えてくれば、より現実的に導入できる提案になってくると思う。</p>	産業局	市長回答のとおり

「市長とふれあいトーク」発言に対する対応方針

別紙(発言要旨)

日時: 令和3年7月15日(木)11:00~12:15
場所: 鹿児島大学

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	担当課の見解、今後の対応等
6	鹿児島大学学生	<p>⑥ タイトル: 自分の町を知る旅に出よう。</p> <p>転入者にとって土地勘がないことや危険な場所についての情報がないことが、日ごろから土砂災害警戒区域などの危険な場所や避難所を知っておくなどの災害対策を行う妨げになっているのではないかと考えている。</p> <p>そこで、災害危険区域や避難場所等の情報を盛り込んだデジタルスタンプラリーを行い、自分の住むまちを知ってもらう取組みを行う。</p>	<p>⑥ 非常にいい提案をもらったと思っている。課題分析が良くできていた。鹿大生のほとんどが県外から来るということや鹿児島市の転入者が年間2万人ということで、まちに詳しくない方が一定数いるという点を示したことで説得力があるプレゼンであったと思う。</p> <p>また、市民の皆さんに動いてもらうという点でも、インセンティブとして目をつけた災害備蓄は、有効期限があり何年かで回していくことを踏まえると、かける予算が少なくて済むし、フードロスの削減にもつながる。そして、もう一つの活用として、観光面で、災害時に観光客が自分がある場所や避難所の場所など、デジタルスタンプラリーが公共交通機関であるバス停などでできることも分かりやすくいいやり方だと思った。</p>	危機管理局	<p>市長回答のとおり 今年度予定されている本講義受講生を対象としたインターンシップにおいて、学生と協働し検討を進め、実施に向け取り組んでまいりたい。</p>